

株式会社ミナミ食品

平成
27
年度

事業計画名 湯葉製品の生産能力及び安全性・保存性を高める生産プロセスの改善

DATA

代表者名 代表取締役 南 一郎 設立 1981年8月 資本金 200万円 従業員数 6名
 実施場所 〒028-8802 岩手県九戸郡洋野町大野55-38-8 TEL.0194-77-3003 FAX.0194-75-3063 E-mail. tatsu.21@woody.ocn.ne.jp
 事業内容 ゆば関連製品の製造、販売、桑の葉関連商品の製造、販売、食品乾燥加工、食品粉末加工事業、養鶏事業(ブロイラー)
 URL www.minami-skh.com/

手作業から機械化へ。生産プロセスの改善で生産能力と品質保持が向上

ゆば製品の生産過程において、ボトルネックとなっていた包装袋への充填作業を効率化するため、「ノントレイ深絞り食品包装機」を導入。生産性と品質保持を高めることにより、受注拡大を目指す。

岩手の素材を活かした商品作り

県北沿岸部の洋野町に事業所を構える当社は、昭和56年の創業以来養鶏業のほか、地元の特産品である大豆を使ったゆば製品、桑葉製品など岩手の素材を活かした健康志向食品の製造販売を手がけている。

ゆば製品は、生ゆば、冷凍ゆば、乾燥ゆばのほか、岩手の海の幸と組み合わせた即席スープを開発し、高い評価を得ている。大規模な食品見本市である「FOODEX JAPAN2015」、「スーパーマーケットトレードショー2016」に出展の機会を得て、即席スープである乾燥ゆばスープ「ゆばと三陸産こんぶのスープ」の試食提供及びプロモーションを実施したところ、多くの新規取引先から引き合いを受けることとなった。しかし、即席スープに入れる乾燥ゆばの製造や個包装は全て手作業で行っており、既存の生産設備では生産量が追いつかない状況であった。そのため納期の延長や失注が発生していたため、生産性向上を図るライン作りが課題となっていた。



岩手の素材にこだわった、「南部ゆばとわかめの無添加スープ」。

こうしたことから当社では、本事業により乾燥ゆばスープをはじめとするゆば製品を個包装する「ノントレイ深絞り食品包装機」を導入し、生産プロセスの改善、生産能力の向上に取り組むこととした。

手作業の包装から自動化へ

乾燥ゆばスープの生産プロセスにおいて、課題となっていたのは包装袋への充填作業であった。乾燥ゆばは割れやすく、具材を袋に丁寧に入れる必要があり、作業者は1回の作業で1個の包装しかできないため、効率が悪く時間のかかる要因となっていた。また、生ゆばと冷凍ゆばは、ヒートシール時に包装袋の溶着部分に豆乳が付着することによる圧着不良が発生し、液漏れを起こすことや流通時に破損することが課題となっていた。

本事業で導入したノントレイ深絞り食品包装機は、1つの金型に個包装サイズのくぼみが8個ついており、1回のプレスでフィルムに8個のくぼみを成形し、



即席スープの中に入れる乾燥ゆばは、手作業で4cm四方にカットしている。

具材を充填することができる。包装内にあえて空気を入れ成形するためトレイを敷く必要がなく、乾燥ゆばの破損を防ぐことができることも特長である。

フィルムのくぼみに具材を載せた後、上からフィルムをかけて熱圧着するため、生ゆばの場合には溶着部分に豆乳が付着しなくなっている。

生産能力と品質が向上

乾燥ゆばスープの1時間あたりの個包装作業は、従来の手作業では1分あたり2.5個、1時間あたり150個だったのに対し、包装機導入後は1分あたり16個、1時間あたり960個と生産量が6.4倍と飛躍的に向上している。

生ゆばの個包装においては、従来が1分あたり2.5個、1時間あたり150個だったのに対し、包装機導入後は1分あたり6個、1時間あたり360個に増加している。さらに真空包装、ガス充填包装の機能により、商品の劣化を防ぎ、保存性が向上している。

また、従来は手作業であった包装袋の圧着作業が自動化されたことにより、安定的に熱圧着され、運用段階において不良品は発生していない。



本事業で導入したノントレイ深絞り食品包装機。同様の機械装置の中では世界最小サイズで省スペースであることも特徴。

地元の雇用拡大にも貢献を

本事業でノントレイ深絞り食品包装機を導入したことにより、生産プロセスが改善され、生産能力が飛躍的に向上し、付加価値の高い商品を安定的に供給することが可能となった。納期遅延や失注していた受注案件について、受け入れができるようになったため、今後は営業活動をさらに充実させ、既存主要取引先からのいっそうの受注拡大を目指していきたい。

昆布とゆばの入った乾燥スープは、お湯を注ぐだけですぐに食べられる手軽さがあり、賞味期限も長く軽量であることから、年々需要が高まっており、全国的にも類似品がほとんど見受けられないことから、さら



ゆば製品の生産ライン作りから、営業活動まで幅広く取り組む、専務取締役の南辰典さん。

なる市場の拡大も見込まれる。

当社創業の契機のひとつは、過疎化や少子高齢化が進む洋野町を元気にすることであり、今後さらに受注を拡大することで、地域の雇用の増加にもつなげていきたい。